

構造と主体 —政策の可能性と不可能性—



泉洋書房
3,024円(税込)

清水習しみずしゅう
〈大学政策学部助教〉著

政策とは、「思想」である。英語で政策は policy と言うが、これは、日本語のカタカナ英語としても使用されている。例えば、「弊社のポリシーは……」、「それが私のポリシーです。」などである。したがって、政策とは、物質的なモノではなく、人々や機関が抱いている考え、より厳密に言えば、日々の物事に対する基本方針として理解することができる。このことから、公共政策とは、政府や政府機関が掲げる「政治的な基本方針」であるといえる。事実、政策学とは、本来この「基本方針」という思想を研

究する学問である。

しかし、旧来の政策学、少なくとも日本の政策学においては、政策を「思想」として捉えることは稀であった。その研究の多くは、本書が指摘する「制度主義」と「合理主義」といったものに分類される。前者は、政策決定過程に関わる法や行政手続きなどを研究の主眼とし、後者は、政策決定過程における人々の行動象としている。この2つの研究アプローチは政策学に必要なものではない。上述のように、政策が、「思想」そして「政治的な基本方針」であるならば、その思想や基本方針の中心、そして、それがどのように作られ、波及し、具現化されるかを考察する必要がある。以上の問題関心をもとに、本書では、「構造と主体」という社会科学の根源的な問いを基軸に、新たな政策研究の可能性と限界を提示している。

著者より

スポーツの法律相談



青林書院
4,212円(税込)

川井圭司かわいけいじ
〈大学政策学部教授〉他著

東京オリ・パラを目前にして、スポーツがこれまでにないほど注目を集めている。その一方で、スポーツ関係者の頭を悩ませるニュースも後を絶たない。指導者の体罰、国立競技場、エンブレム、プロ野球選手の野球賭博、バドミントン選手の違法カジノ事件、体育祭でのピラミッド事故、フアウルボール事故などなど。

こうしたスポーツ界の問題に直接かかわる実務家や研究者が、個々の事例を踏まえて、わかりやすく解説したのが本書である。計82ケースのQ&Aがあり、様々な論点を網羅的に扱っている。初学者の疑問を解明しつつ、さらなる関心の扉を開くという

入門書としての役割を本書が果たすものと期待している。

1984年のロス五輪以降、スポーツは様々な側面で商業化を加速させてきた。そのロス五輪の年に製作されたアメリカ映画『ベストキッド (Karate Kid)』が日本でも流行した。ミヤギという日系の老人(空手の達人)から手ほどきを受け、内気だった少年が成長を遂げ、地域の選手権で優勝を果たすストーリーである。映画の舞台となる試合会場には派手な演出が施され、空手の試合がエンターテイメントとして描写されていた。当時、空手に没頭していた私は、日本の武道を全く理解していないと、見くびった感情を抱いたのを思い出す。しかし、つい先日、ニュースで取り上げられた全日本空手道選手権の様子は「ベストキッド」で描かれた試合会場をどこか彷彿させるものであった。世界的にも日本においてもスポーツをめぐる環境が変わり、スポーツの在り方自体も大きく変わろうとしている。そのなかで、法的なアプローチがこれまで以上に重要になってきている。

著者より



吉川弘文館
10,260円(税込)

中近世の生業と里湖の環境史

佐野静代(大学の文学部教授)著

現在の自然保護活動では、里山に代表されるような二次的自然が注目されています。人間が様々な利用することで成り立っていた二次的自然は、里山のような山辺だけでなく、水辺にも存在していたと考えられます。しかし、このような「里海」や「里湖」については、まだ研究が十分に進んでいません。そこで、水辺の二次的自然の実態とその形成過程を解明すべく、琵琶湖・淀川水系を対象に歴史地理学的研究を試みたのが本書です。

近世の「里湖」では、水草や底泥を肥料として採取することで、

リン・窒素を年間に何トンも陸上へと回収するシステムが成り立っていました。また、水中の懸濁物を濾過してくれるセタシジミは、漁獲後に貝灰に加工されて肥料や土壌改良材となり、草肥不足に陥っていた「はげ山」の麓の村々に送られていたこともわかりました。

さらに判明したことは、肥料としての水草・底泥の採取行為は、多くの湖では菜種や木綿の導入とともに本格化したという事実です。これらの作物は、中世までの荏胡麻や麻に代わって近世に地域外から移入された外来植物に当たります。つまり「里湖」の成立には、商品作物としての「外来種」の導入という強い人為の介入があったことがわかります。

このように「里湖」の多くは、在来の生態系とはいいたくない側面を有していたようです。この意外ともいえる結果が、本書の成果として提起できる点ではないかと思っています。

著者より



新評論
2,160円(税込)

スーパーマンの誕生・KKK、自警主義、優生学

遠藤徹(地域文化学部教授)著

できるだけ学生たちがとっつきやすいテーマから、アメリカという国の姿を浮き彫りにすることはできないだろうか? ということを、長年考えてきました。ポピュラーソングの研究もその一つでしたし、プラスチックや食品添加物の研究もそうした意識が根っこにあったものでした。そんな折、ある偶然から、バットマンについて原稿を書く機会をいただき、映画を見てみたら、実に多くの発見があつて驚きました。バットマンについて書いた以上、もう一人のスーパーヒーローも放っておくわけに

はいかないと思ひ、いろいろ調べているうちに、自分のなかで「スーパーマン」20世紀初頭のアメリカ文化を集約したもの、という構図ができていきました。

ビリー・ホリデイが芸能界から追放される覚悟で発表した『ストレンジ・フルーツ』に歌われているように、当時は南部で黒人へのリンチがまだ繰り返されておりました。その背後にはKKKという人種差別主義の自警組織があつたこと。自警の意識は、こうした差別主義の集団だけではなく、アメリカの建国以来のエトスでもあつたこと。そして前世紀末から30年代後半までの間、優生学という偽科学が「科学的」に人種差別を肯定していたこと。そうしたすべてが、スーパーマンという表象の中に、「裏返された」かたちで詰め込まれていると考えました。そこに、アメリカという国のある種の本質を垣間見ることができるようになっています。アメリカ研究の入門書として、楽しんでいただければ幸いです。

著者より



中央経済社
3,456円(税込)

金融革新と不安定性の経済学

植田宏文(大学商学部教授)著

昨今の一連の金融規制緩和によって、新たな金融商品・取引手段、市場・金融機関が生まれ、金融取引額は実体経済の取引額をはるかに凌駕している。金融技術革新によって、新たな金融商品や取引が創出されれば、一般的に資金の効率的配分を通じて経済厚生の成長に貢献すると考えられる。資本主義経済において、経済の成長とともに企業の資金需要ニーズが高まれば、これに応えるべく金融商品が開発され、新しい金融システムの下で経済活動が適切に活発化することも期待される。また、膨

大な資金決済が瞬時に可能となれば、経済情勢や将来期待が変化しても、即座に望ましい市場へ資金を移動させることが可能である。

しかし、金融革新は新たな取引を拡大させ経済の成長に寄与することができると同時に、その運用を誤れば、むしろ経済を金融的要因によって不安定にする可能性もある。本書では、金融市場に期待されている市場均衡メカニズムは新しい金融技術革新の下で必ずしも機能するわけではなく、反対に実体経済の不安定性を助長ないし増幅させる側面を有していることが示される。

金融市場の動きは、金融市場内部だけで完結するものではなく、実体経済に大きな影響を与えることに顕著な特徴がある。本書において、常に金融的要因と実体経済の相互関連が念頭におかれ、金融制度・システムと金融市場および経済活動がどのように連結しているのか、そしていかなる条件の下で不安定性が生じるのか明らかにされている。

著者より



岩波書店
886円(税込)

偽りの経済政策

格差と停滞のアベノミクス

服部茂幸(大学商学部教授)著

アベノミクスの第1の柱は日銀の量的・質的緩和政策(異次元緩和政策)である。異次元緩和政策が始まった当初、2年で物価上昇率を2%まで高めるはずだった。実際には、5年が経とうとしているにもかかわらず、未だに目標達成にはほど遠い。ところが、現在の日銀は消費税増税や世界的な原油安、新興国の経済減速など外的な要因に責任を転嫁し、失敗を認めない。しかし、異次元緩和を支えるリフレ派経済学によれば、デフレ脱却の条件は金融緩和であるすなわち、こうした日銀の自己

弁護論自身、リフレ派理論の自己否定である。昏迷も窮まったと言えるであろう。

他方、日銀は就業者の増加などを金融政策の成果として誇る。しかし、円安にもかかわらず、輸出が伸び悩んでいることは日銀も認めている(むしろ、輸入が大きく増加している)。円安インフレによって賃金と所得が目減りした結果、実質では消費も停滞した。輸出や消費の停滞にもかかわらず、就業者が増加したとは奇妙な話であろう。

本書は一人あたりの就業時間が減少しているため、延べ就業時間は増加していないことを明らかにした。また労働生産性上昇率の低下が延べ就業時間の増加要因として重要な役割を果たしていることも示した。これがなければ、延べ就業時間はより減少したはずである。このようにアベノミクスの成果とされるものも、実態はないのである。

著者より



新典社 1,836円(税込)

源氏物語とシェイクスピア

廣田 収(ひろた せむ) 著
勝山 貴之(かつやま たかゆき) 著
(文学文学部教授)

学問を進めて行く方法として、研究書や論文を読むことは欠かせないが、研究者に直接教を乞うということも大切なことである。研究の勘どころというものは活字だけではなかなか掴めない。その意味で、英文学の研究者である勝山先生に、対談の形式で、失礼ながら色々とお話をうかがえたことは光栄なる出会だった。

共著であるから、私だけが紹介を書くことは僭越なことであるが、『源氏物語とシェイクスピア』という、日本古代文学の

書名、とイギリスの劇作家の名前とが並んでいて、これでは釣り合っていないと非難されるかもしれないが、これしか書名が思い浮かばなかったことも事実である。ただ、これは正しい意味で文学入門の書である。ともかく、こんな書名のために「源氏物語とシェイクスピアなんて、どうつながるのだろう」とか「いったいどんな本なんだろう」と疑問を感じて、もし手に取っていただければ、怖いもの知らずの企ての半分は成功したようなものである。

時代に残り残された感のある文学部で、これから何ができるのか。歴史的な検証を経てきた世界的な古典文学を、文化論一般に解消せず、情報やメディアにずらしたりもせずに、文学そのものを問う意味はどこにあるのか。臆面もなく自画自賛すれば、英文学と国文学と、異質なものをぶつけ合うことで生まれることは実に多く、志ある人が御覧になれば、驚きと発見とに満ちた一冊であることはまちがいない。

廣田 収より



北大路書房 5,184円(税込)

心理学からみた食べる行動

青山 謙二郎(あおやま けんじろう) 著
武藤 崇(むとう たかし) 著
畑敏道(はたみちみち) 著
(心理学部教授)

私たちはなぜ食べるのだろうか。どうして食べ過ぎてしまうのだろうか。なぜ食行動の異常は起こるのだろうか。これらはいずれも食べる行動のコントロールに関する疑問である。食行動のコントロールには「心理学的なメカニズム」が重要であることが、筆者たちの願っていたように、ただし本書の狙いは、食行動の心理的要因に関する知見を網羅的に解説することではない。むしろ、それらの知見をどのように導き出したかというプロセ

スの理解を重視している。心理学は、客観的なデータに基づく学問であり、知見の元になるデータが生み出されるプロセスの理解が本質的に重要だからである。そのため、本書では解説するトピックを絞り込み、実験や研究の方法やデータを具体的に紹介することに紙数をさいた。これが、本書の最大の特徴である。

本書の第1部は、主として青山が編集を担当し、基礎的な研究の紹介を行った。食行動に関する脳のメカニズムや、過去の経験に基づく学習の役割、社会的な影響、さらには食品に関する消費者行動研究まで幅広い話題を扱っている。第2部は共編者の武藤崇心理学部教授が主に編集を担当し、食行動の臨床に関する研究の紹介を行っている。第2部では、科学的な根拠のある心理学の介入方法を全般的に解説するだけでなく、とくに行動分析学に基づく新しい取り組みを積極的に紹介した。意欲的な研究がまさに進行していくさまを感じていただけるであろう。

青山 謙二郎より



思文閣出版 19,440円(税込)

園城寺の仏像 第二巻

井上 一稔(いのうえ かずゆき) 著
(文学文学部教授)

広大な寺域を有し、近江八景の「三井の晚鐘」で代表される絶景が楽しめる園城寺は、心洗われる場としてもぜひ訪れたい寺院である。本寺は三井寺ともいい、その歴史は古く7世紀後半にさかのぼり、智証大師円珍(814~891)が859年に再興する。その永い歴史の中で、国宝・重要文化財843点が蔵されることになった。

この度園城寺では、智証大師生誕1200年の記念事業の一環として、編纂委員会を組織し、本寺に安置される仏像を全四巻にまとめ広く紹介する。既に第一巻は智証大師篇として、2体

の国宝・智証大師坐像をはじめ8例の肖像の詳細な写真およびデータが刊行されている。つづく本巻は、平安時代の彫刻12体を紹介する。重要文化財に指定されている像では、秘仏の如意輪観音坐像(観音堂本尊)、珍しい女神形の護法善神立像、精緻な彫りを施した十一面観音立像、最澄の造像した千手観音の伝統を引く千手観音立像、長和3年(1014)に造られたことが胎内に墨書される不動明王坐像が含まれる。これらの像は既に知られたものではあるが、秘仏を含むように宗教上の理由もあつて、必ずしも美術史研究をおこなう上での十分な情報が公表されていなかったわけではない。この度本書では、園城寺の全面的な御理解のもとに、一体一体が丁寧に調査され、これまで目にすることができなかった情報を余すところなく提供している。美術史研究のみならず、宗教文化にかかわる研究にとつて有意義な情報が含まれると思われ、ぜひ一読をお勧めしたい。

著者より



有斐閣 1,944円(税込)

身近に感じる国際金融

五百旗頭 眞吾(いほきべんご) 著
(文学文学部教授)

学部の学生から「難しい」と「つきにくい」という印象を持たれている国際金融論。学生がひとりでも無理なく通読できるようなテキストを作れないか。そのような想いで共同執筆した一冊です。

7章立てのうち、1~4章では、為替レート、国際金融市場、貿易収支、固定相場制など国際金融の諸制度と基礎概念を、基礎理論とあわせて、なるだけ軽妙な筆致で解説しました。5章では、第一次大戦前の国際金本位制から、1971年のニクソン・ショックで戦後の対ドル固

定相場制が崩壊するまでの国際通貨制度の変遷を、歴史小説にも触れながら、まとめています。6~7章では、過去30年間に起こった国際金融危機(2008年の世界金融危機や1997年のアジア通貨危機など)の概要と、危機を受けて国際決済銀行(BIS)や国際通貨基金(IMF)が実施した対応策や再発防止策を紹介しました。中国をはじめとする新興国の台頭がドルを基軸とする国際通貨体制に及ぼす影響や、ギリシャ危機で動揺した欧州通貨統合の行方も展望しています。

「初学者向け」を意識したため、類書に比べてトピックの数は少なめですが、それでも理論、歴史、現実問題をバランス良く取り上げましたので、本書を一通り読めば国際金融の要点を理解していただけると思います。数式は使わず、「読み物」にもなるよう努めましたので、為替レートに関わりの深い仕事に従事されている社会人の方々にもぜひ読んでいただければ幸いです。

著者より



同友館
2,376円(税込)

21世紀中小企業のネットワーク組織

関智宏(大学商学部教授)他著

本書は、2000年代以降に結成された、中小企業によるネットワーク組織を取り上げ、その実態や課題などを導出しようと試みたものである。

中小企業のネットワーク組織をめぐっては、中小企業対策としての組織化の施策が展開されたこともあり、日本では、中小企業組合や商工会議所・商工会さらには異業種交流など多様な中小企業のネットワーク組織が結成されてきた。

2000年代以降においても、新連携や農工商連携といった新しいネットワーク組織化が政策的にも実践的にも数多く展開さ



三省堂
3,024円(税込)

国会を考える

勝山教子(大学法学部教授)他著

議法制民主主義を確立した諸

国家は、とりわけ20世紀後半以降、議会という18世紀の道具を現代国家に適用してきた。日本の取り組みを続けてきた。日本も例外ではなく、1990年代の政治改革論議の一環として始まった平成の国会改革論議では、両院議長をはじめ政党・民間団体から様々な改革が提案され、政策本位・政党本位の選挙制度や党首討論の導入、政府委員の国会答弁の廃止など今日の国会の運営や質疑の質に大きな影響を与える改革が実現した。にもかかわらず、日本の国会は諸外国の議会に比べ3周ほど

著者より



共立出版株式会社
3,240円(税込)

すべての人のためのJavaプログラミング 第3版

ありがたこ(女子大学工学部教授)他著

プログラミングの初歩から始めて、段階的に学習を進め、実践的なプログラムを書けるようになることを目指したJavaプログラミングの解説書です。

Javaは1990年代後半にインターネットの普及とともに生まれた言語で、Webブラウザの画面上で動くプログラムであるappletを書けることで注目を集めました。その時はじめてプログラミングを学ぶ言語としてJavaを解説したのが、本書の初版です。情報技術の変化の中で、Java言語も進化してきました。特に2014年に発表されたJava

れてきた。しかしながら、そのような実態がありながらも、この新しい中小企業のネットワーク組織を包括的かつ体系的に取り上げた研究は、ここ最近では多くみられなかった。

本書では、ケースを描き出すことに主眼をおいたために、本書の学術的な位置づけや政策提言など多くの課題は残されている。しかしながら、本書を通じて、中小企業ネットワーク組織に対する学術的・実践的・政策的な関心がいつそう高まっていけば望外の喜びである。

かつて2005年9月に、「中小企業の新たな連携(コラボレーション)」を指して「を統一論」として日本中小企業学会全国大会第25回大会が同志社大学にて開催された(大会委員長・太田進一商学部名誉教授)。中小企業のネットワーク組織を取り扱った本書を、太田名誉教授の後任として着任した私が、ここで紹介させていただく機会を得たことに感謝を申し上げ、本書紹介の結びに代えたい。

著者より

ASE8で大きなバージョンアップがなされました。ラムダ式などの関数型プログラミングの概念が導入され、プログラムの書き方が大きく変わりました。また、高機能なGUIを作成できるJavaFXライブラリが使えるようになり、並列、並行プログラミングの機能も強化されています。本書(第3版)では、このような変化を取り入れ、内容を刷新しています。

基礎を学ぶ部分では、ターゲットグラフィックスを利用し、視覚的にプログラムの動きを理解しながら、オブジェクト指向を中心とするJava言語の概念を学習します。後半ではJavaFXのGUIのライブラリを学び、基本グラフィックスの描画やアニメーションなどの機能を用いて、より楽しめるアプリケーションが作れるようになっていきます。また、コレクションについても説明しています。

例題や練習問題のプログラムはサポートページからダウンロードできます。学習者には、例題を実行して、練習問題を解きながら読み進めてほしいと思います。

著者より

遅れているといわれる。国会の法案審議は与党の事前審査という日本特有の慣行により形骸化し、議院の活動は古めかしい会期制度・会期不継続の原則により分断され効果も効率も上がらず、政府統制・行政監視の効果的手法も見出しえない。またとされる。日本の国会はこのまま生きのびていけるのだろうか。本書の根底にはこうした問いがある。

本書では、国会の何が問題であり、何が実現可能な改革かを探るため、国会の組織・構成、権限・機能、手続・運用の視点から分析・検討を加えている。

客観的な議論には比較議会议的視点が欠かせないことから、第一部では主要国議会の最新の動向と問題点を具体的に明らかにし、第二部で、主要国の議会を俯瞰して日本の国会の問題点を検討し、その将来像を探究する。日本の国会のあり方に関心をもたれる方々には是非一読いただければと思う。

著者より